

ねんりんピック栃木2014 監督日誌 (H26.10.20)

文責 静岡県選手団 監督 後藤 徹

残念のひとつ !! ふたこと!!

出発 (10月3日)

今回は浜松、静岡、三島駅組が東京駅にて合流。宇都宮まで臨時新幹線で他県の選手と一緒に。宇都宮駅からは輸送バスで1時間半かけて、今夜の宿 鬼怒川温泉へ。

開会式 (10月4日)

体風18号の行方が心配で空ばかり見上げていた開会式直前。手荷物を預けて、選手集合所に整列。地元の子供たちと交流会が開かれ、元気を貰う。笑顔と足並みを揃えて堂々の行進。フィールドに腰を降ろして、式典は粛々と進む。流鏝馬などのアトラクションを十分楽しんでから、ダンス選手諸君は太田原市へ向かう。鬼怒川から宇都宮へそして太田原へと、同じ距離を丁度V字型に移動したことになった。

大会当日 (10月5日)

台風の雨はまだ来ないらしい。県北体育館までバス10分で到着。更衣場所も広いし、のびのび着替えができる。応援席から本部席のスクリーンか見えにくいのが、ちょっぴり不満。地元金田南中1年2組の応援メッセージ横断幕にはとても感激

10分遅れでチャチャの予選から競技開始。2面使用で審査員が5名ずつの豪華さ。しかし、本県選手は3組がA面、1組がB面での出場になってしまい、応援席から離れられない構造の為、B面の応援ができず終い。本当にごめんなさい。

リダンスの説明が度々行われたが、少々混乱あり。野田・杉澤組が決勝7組に残る。

スタンダードに入ると、場馴れしたエース級が出場し、一味違う踊りを見せつけられた。みんな必死に食い下がり、こちら準決勝まで進んだ組がいた。

団体戦の前にデモンストレーション。ゲストは関根・沼田組それに栃木県のジュニア。1時間の持ち時間の、半分近くをジュニアが踊る。両方とも素晴らしかったが、いかにせん時間が長すぎた。それ以降が30分以上も遅れることとなってしまった。

団体戦は49チームの戦い。今年は種目ごとにシャッフルされる方式。順調に準決勝を踊り、あとは祈る気持ちのみ。でも運命の女神は、ついに我らを見放した。

結局祝いの夕食会も挙げる事無く解散。このユニフォームは未来につながるのだから大切に保管して、再来年の長崎大会で着用しよう。

翌日、新幹線が運休したため東京駅は大混雑。3時間遅れでやっと帰静できました。